

私は、日本産業カウンセラー協会でキャリアコンサルタントの資格を2003年に取得したが、日本マンパワーが母体の日本キャリア開発協会(JCDA:Japan Career Development Association)の一般会員にも登録した。現役時代から日本マンパワーとはお付き合いがあり、CDAの礎を築かれたJCDAの小野氏のキャリア開発の考え方に興味をもっていたからである。資格取得後しばらくし

## ナビゲーター

て、JCDAから、毎年全米の各地域で開催される国際大会「NCD A:National Career Development Association」の案内が来た。私が参加しようと思ったのは、①ジョン・克蘭ボルツ、サニー・ハンセンなど講習で習ったキャリアに関する著名かつ私自身が心服する講師の講演があること②かつて滞在して印象のよかったサンフランシスコで行われ、大会会場・宿泊先が映画「タワーリング・イ

回 27

## 産業カウンセラーの現場から 相談者の思いに共感して 伴走する

# 仕事への姿勢に大きな影響

「ハイアット・リージェンシー」で、映画で上下する丸いエレベーターを私は覚えていたこと③同時通訳がついていることであった。ツアーが成功するかどうかは、プログラム、同行する仲間、ツアー先の快適さによるが、その全てに恵まれたツアーであった。

ハンセンには、初日のレセプションの場でお会いすることが出来、とても感激した。ハンセンが提唱された4L(Labour・Leisure・Learning・Love)を私自身も大切にし、キャリアの勉強会等では常に受講者の方々に語りかけてきた。

克蘭ボルツの講演は2日目であったが、さすがに人気があり超満員で席が無く、立つたままで聴講した。克蘭ボルツが実際に関わった例として、「冷蔵庫の運搬屋」で仕事

## 「NCD A国際大会」視察ツアー

がいやで転職希望のクライアントが、克蘭ボルツからの宿題を実施していく過程で、自分がその仕事が好きだが悩む原因は、母親の「人を指導する立場になれ」という幼児期の言葉がトラウマことになっている気付き、自分自身を「Cold Storage Consultant」と命名し、今の仕事を続けることになったという話は印象的であった。キャリアカウンセラーは「(カウンセラーではなく)クライアントが天才であることを認識して対応すべき」という結論は、その後の私のクライアントに向かう姿勢に大きな影響を与えた。また他の講演者の講演会に克蘭ボルツが聴講者として出席されていたので、声をかけ名刺交換し、しばしの間1:1で話が出来たのも望外の幸せだった。まさに「Planned Happenstance」と言えよう。

ツアー仲間については色々な方と知り合えたこと、一緒に近隣のスタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校の見学の出来たこと、サンフランシスコのキャリア・セクター(日本の職安)や、能力開発機関を訪ねたこと、フィッシャーマンズ・ワーフでアルカトラズ島を眺めながら魚料理を食べたことなど、思いはつきない。

日本人は我々のほかに通訳なしで来ていたが、彼らはリクルートの社員などで、通訳なしでも理解できる人々であった。私も次のNCD A参加の折には通訳なしで参加したいと強く思い、帰国後、英語のヒアリングに努めたが、タイミング・英語能力未達・コロナのためにいまだに実現していない。克蘭ボルツ博士は残念にも昨年逝去されたが、NCD Aの再参加は今でも私の夢である。

【日本産業カウンセラー協会会員 産業力カウンセラー 社会保険労務士 中小企業診断士 杉本和夫】

(火曜日掲載)

